

## その後の松平定敬（さだあき）

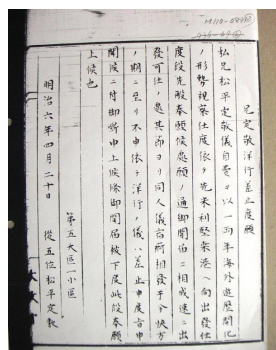
郷土史家 西 羽 晃

前に書きましたが、前桑名藩主の松平定敬は新政府に降服して、明治2（1869）年8月27日から東京の津藩邸で謹慎生活をしました。4年3月15日に東京の桑名藩邸に移され、同年4月7日に桑名に戻ってきました。実に7年ぶりの帰郷です。その後は桑名で謹慎生活を送りました。同年5月から「晴山」の号で呼ばれました。

定敬は明治5年1月6日に恩赦で罪を許され、自由の身となりました。2月21日に定敬の前の桑名藩主・松平定猷の長女・初姫と結婚しました。元々は初姫と結婚を前提として定敬は婿養子に來た人です。初姫は幼かったし、幕末維新の動乱期で結婚に至っていませんでした。正式に結婚した時には定敬は27歳、初姫は16歳になっていました。旧藩主家は東京に住むことを義務付けられましたので、2月29日に定敬は四日市港から蒸気船に乗って東京に向かいました。その時に同行したのは、初姫、妾、付添人でした。正室の他に側室がいたようです。

定敬の息子に喜雄がいます。喜雄の母は「家女」とあり、側室だったのでしょうか。定敬と正室の初姫との間に2男正雄、3男敏雄が出来ますが、いずれも夭折したようです。上記とは別の側室（別所儀兵衛の娘）が生んだ和雄が4男であり、後に定晴となって松平家を継いでいます。

明治5年定敬は上京して間もなくの3月14日、華族の籍を離れて、平民の籍に入りたいとの願いを政府に提出しましたが、認められませんでした。同年11月には私費でのヨーロッパ旅行を届けています。しかし病気になったため、行かなかったようです。



定敬の洋行差止願（公文録）

明治9年11月11日に従五位に授けられています。20年12月に旧桑名城内に「戊辰殉難招魂碑」が建てられました。文章を定敬が選びましたが、「桑名の武士も人民も節を守って、忠義を尽くした」との意味のことが書いてあります。変節した薩摩・長州によって成立した明治政府への痛烈な批判が込められていると私は思います。

明治27年1月24日に日光東照宮の宮司に就任しています。兄の松平容保も日光東照宮の宮司を勤めていたので、兄弟とも徳川家を守る立場を貫いたのです。健康がすぐれず、3年足らずで宮司を退任して、以後は東京で住んだようです。41年7月21日病気で亡くなりました。享年63歳でした。2日後に東京染井墓地に葬られました。死亡直前に従二位を授けられています。歴代の桑名藩主では最高の位です。初姫は先に34年2月3日に亡くなっており、やはり染井墓地に葬られています。